

若者に広がる支援

「自分たちに何ができるか」一。震災を機に、人のつながりの大切さが見直される中、若者たちのボランティアへの関心が高まっているようだ。県内でも大学生が次々に被災地入りし、がれき撤

去や家屋の清掃などに協力。各大学が把握する学生ボランティアは計130人以上に上っており、さまざまな思いで被災者らに寄り添い、支援の輪を広げている。(内田圭助、山本友志)

大学生130人超 県内から被災地へ 継続的な活動に

大津波で1400人超の死者・行方不明者を出した岩手県大槌町。8月下旬、岡山経済同友会が派遣した県内12大学・専門学校の「復興支援ボランティア」39人は海岸沿いの光景に息をのんだ。建物は流され、視界に入るのはがれきや土砂がたまった平地だけ。岡山で過ごす日常と比べ、あまりにも非現実的な世界を目の当たりにし、岡山3年小川祐喜子さん(21)は「想像をはるかに超えている」と衝撃を受けた。

一行は現地での3日間、津波で流された住宅跡で土砂などを撤去、菜の花の種を植えるために河川敷のがれきを取り除いたり、復興へ歩む住民の声も聞いた。こうした活動を通じて「生かされていることに感謝」「生活を見つめ直すきっかけになった」と思い始め、救急救命士を目指す学生は「一人の命の大切さを実感した」と語った。



菜の花の種を植えるため、大槌中学近くの河川敷でがれきなどを取り除く岡山経済同友会派遣の大学生ボランティア＝8月25日、岩手県大槌町

環太平洋大2年白髪光洋さん(19)は「被災地が立ち直るには継続的な支援が必要。他大学のグループとも連携し、もう一度訪れたい」と決意を込めた。

岡山大の学生と教職員有志15人でつくるグループ「おかやまパトロン」は8月、日本舞踊や三味線を習う福島市の子どもたち21人を岡山市に招待、夏合宿の場を提供した。「話をいただいた時、夢かと思った」と、日本舞踊「福島里の子会」指導者の花柳沙里樹さん。同パトロン代表の岡山大3年佐々木康裕さん(22)は「子どもたちの笑顔を見た時、招待して良かったと感じた。今後も自分たちにできることを考えたい」。

定期的なボランティアを派遣する中国学園大・中国短大。6月から月1度、学生らが宮城県気仙沼市の避難所で救済物資の仕分けや仮設住宅への配達、家屋

岡山大の学生と教職員有志15人でつくるグループ「おかやまパトロン」は8月、日本舞踊や三味線を習う福島市の子どもたち21人を岡山市に招待、夏合宿の場を提供した。「話をいただいた時、夢かと思った」と、日本舞踊「福島里の子会」指導者の花柳沙里樹さん。同パトロン代表の岡山大3年佐々木康裕さん(22)は「子どもたちの笑顔を見た時、招待して良かったと感じた。今後も自分たちにできることを考えたい」。

清掃に取り組み。今月11日にも12人が現地入りする予定で、同大学生部は「避難所は9月末に閉鎖される。今回の訪問で被災地のニーズを聞き、できることがあれば支援を続けたい」という。川崎医療福祉大の学生は災害ボランティアチームを結成した。

県内から被災地へ向けて、これまでに警察や自衛隊、医療・保健分野の支援チーム、市民ボランティアなど延べ3800人が派遣された。復旧が進む中、支援態勢は縮小傾向だが、被災者の心のケアなど果たすべき役割は

被災地でのボランティア活動以外にも支援の輪は広がる。被災地でのボランティア活動以外にも支援の輪は広がる。

国際医療ボランティア・AMDA(本部・岡山市)の菅波茂代表は「若者は得てして『無

延べ3800人派遣 県内各機関 態勢縮小も

「気力」や「無関心」と言われるが、心の中には「相互扶助」の精神が根付いている。実行

「若者は得てして『無

部隊名	活動の拠点、中心地	活動内容	延べ人数
中国管区機動隊県部隊	岩手県陸前高田市など	行方不明者捜索、交通規制	542人
県警機動隊	宮城県気仙沼市など	行方不明者捜索、交通規制	90人
県警地域警察部隊	福島県郡山市など	パトロール	112人
県警第二機動隊	宮城県多賀城市など	警戒活動	104人
県警特別交通部隊	宮城県塩釜市	交通規制	6人
県警被災者支援隊	岩手県宮古市	防犯指導・相談	5人
AMDA	岩手県大槌町など	病院への人員支援、避難者治療など	226人
県心のケアチーム	宮城県南三陸町など	精神科診療	68人
県職員支援隊	福島県郡山市など	避難所運営支援、岡山での受け入れ情報提供、災害対策本部の業務支援	157人
倉敷市社協市民ボランティア	岩手県遠野市など	がれき撤去、写真洗浄など	370人
笠岡市社協市民ボランティア	宮城県多賀城市など	がれき撤去、高齢者の安否確認など	50人

被災地を支援している県内の主な応援部隊

きた。県社会福祉会によると、当財搬出や清掃がたが、最近では避難の場づくりなど多岐にわたる。岡山県協会のボランティアは宮三陸町で家財搬出に加え、復興の援助も実施。向けて独居高齢活支援がメインとなる。岩手市に拠点を置く社協は、10月末ボランティアセ閉鎖後、物資輸送の写真洗浄な支援に努める。防災に詳しいのの前野詩朗教授(工学)は「被災ノウハウを失った者が多く、継続助が求められるボランティアについて行政と民間が連携したシステムが必要」と指摘。東海・南海の3連動地震摘される中、「支た経験は県全体すべき」とする(秋山昌三、山本